

平成29年度 会長 指 針

同友クラブ会長 笠 倉 勉

同友クラブ会長として2年目を迎える2017年度は、昨年度と同じ「地域に必要とされる同友クラブ」をスローガンに事業を進め、更なる同友クラブの発展を図っていきたいと思います。

世界では、オバマ大統領から、トランプ大統領に変わり、世界経済が混乱している中、茨城県では、鹿島アントラーズのクラブワールドカップの準優勝、本県出身の稀勢の里関が、第72代の横綱に昇進し、茨城県の知名度も上がっています。また、筑西市でも、スピカビルの新庁舎移転に伴い、町の賑わい、そして、新中核病院の工事着工、道の駅の開業予定、企業誘致の推進等の明るいニュースもあります。反面、人口減少等の深刻な問題もあります。人口減少の対策として、企業誘致、創業支援、商業活性化、若者の出会い、結婚、子育て支援等が考えられます。そんな中、同友クラブも、経済人の団体として、自社の企業を活性化させ、まちおこしができる団体として、問題解決にむけて貢献できると思います。

同友クラブの目的にある、個性の尊重、自己啓発と研修、会員相互の親睦、そして、地域社会の発展に寄与する を会員全員が理解し、更に、同じ意識を持って、事業をおこなってまいります。また、委員会事業に関しては、委員会の自主性を尊重し、独自性を活かせるような体制で運営していきます。そして、昨年度と同様に、ケーブルテレビ、SNS等を利用し、クラブの様々な活動のPRを強化し、同友クラブのイメージを向上させ、地域の皆様に更に同友クラブを知ってもらえるように努めます。

総務委員会には、総会の企画、運営、そして理事会の設営とありますが、円滑なクラブ運営の仕切り役をお願いし、そして、地域社会の発展に寄与できるような事業をして頂きたいと考えます。

青少年育成委員会には、新たな「学童野球大会」の開催を企画して頂きましたが、子供達、保護者、多くの方々から、前の64チームに戻して欲しいという強い要望が出ています。

大会趣旨でもある、スポーツを通し青少年育成と地域間の交流を図ることを目的としていますので、再度、検討して頂きたいと思います。未来を担う子供達の幸せの為に、豊かな環境作り、社会観の教育を支援できる事業をして頂きたいと考えます。

会員交流委員会には、会員相互の親睦を深め、更には、コミュニケーションの充実を図り、人的ネットワークを強化させながら、同友クラブらしい事業、同友クラブの魅力を発信できる事業をして頂きたいと考えます。

人間力向上委員会には、まちづくりができる人づくりを目的に、会員の能力の向上、地域のリーダーとなる為の研修、そして、地域発展、地域魅力を向上させる事業をして頂きたいと考えます。

協働のまちづくり委員会には、今年度は、合同新年会を計画してもらいますが、同友クラブが地域のまちづくりのリーダー的存在になるように、オリジナルのまちづくりを確立、実施して頂きたいと考えます。

広報委員会には、月報の発行と健康診断をお願いしていますが、地域及び会員のニーズに合わせた広報誌の発行、そして、同友クラブの活動を、多くの方々に知って頂くように、PR活動を強化して頂きたいと考えます。

去年は、同友クラブも55年を迎えることができました。55年間、地域社会の発展を目的に様々な事業をおこなってきました。そして、改めて歴史を振り返りながら、新たな気持ちで「地域に必要とされる同友クラブ」を目指し、事業をおこないました。シニア、正会員合わせて113名ですが、メンバーの年齢構成、経済状況等をみると、シニアへの移動、退会も懸念されますが、会の目的や活動のPRを強化しながら、会員増強を推進していきたいと思えます。また、委員会の活発な活動を支援し、魅力ある例会を企画し、同友クラブの今後の更なる発展と飛躍を目指していきますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。